

2026 年度第1回須坂市高齢者施策推進協議会 要約議事録

1 会議名	2026 年度第1回須坂市高齢者施策推進協議会
2 日 時	2026 年8月5日(水)13:30～15:05
3 場 所	仁礼コミュニティセンター 会議室
4 出席者	【委員】17 名 ※欠席 1 名 金子委員 下鳥委員、青木(宏)委員、村石委員、柄澤委員、青木(一)委員、 池田委員、清水委員、松山委員、山浦委員、富澤委員、小池委 員、神林委員、酒井委員、滝澤委員、竹前委員、新村委員、中村 委員 【事務局】 荻原健康福祉部長、関野高齢者福祉課長、鈴木高齢者福祉課長 補佐、宮尾介護保険係長、坂田介護保険係担当係長、津山地域 支援係長、中村介護予防係長、市村主査

<議事概要>

1 開 会

2 会長あいさつ

3 新任委員・異動職員の報告及び自己紹介【委員名簿】

4 議 事

(1)須坂市高齢者いきいきプランの進捗状況について

事務局より須坂市高齢者いきいきプラン課題評価用シートの取組みの概要、施策の実施状況や目標の達成状況、今後の方向性について説明。項目数が多いため変動があった項目や課題があり検討が必要な項目について抜粋して説明。目標指標における 2025 年度の実績を報告。

(説明した項目名)

- 訪問型サービス A(緩和した基準によるサービス)
- 訪問型サービスB(住民主体によるサービス)
- 訪問型サービスD(移動支援)
- 通所型サービスC(短期集中予防サービス)
- 介護予防把握事業
- 保健事業と介護予防の一体的取組みの推進
- 高齢者訪問事業等
- 老人福祉センター運営事業

- ゲートボール場運営事業
- 『すざかマイ・ノート』普及事業
- 就労的活動の支援
- 養護者による高齢者虐待への対応強化
- 養介護施設従事者等による高齢者虐待への対応強化
- 成年後見制度利用促進事業の取組み
- 『食』の自立支援事業
- 緊急通報システム事業
- 在宅福祉利用券給付事業
- 認知症の理解を深めるための普及啓発への取組み
- 地域での見守りネットワークの構築
- 相談の場や交流・参加活動の推進
- 相談支援の充実
- 介護教室の開催
- 在宅福祉介護者慰労金支給事業
- 生活支援体制の整備
- 介護事業所との連携
- 訪問介護
- 居宅介護支援
- 認知症対応型共同生活介護
- 介護医療院

(2) 須坂市高齢者いきいきプランについて

- 須坂市では、老人福祉計画と介護保険事業計画、認知症施策推進計画を合わせて、高齢者いきいきプランという名称で計画を策定。
- 2027 年度から 2029 年度の次期計画は、今年度が策定する年となっている。老人福祉計画と介護保険事業計画は 1 期 3 年とされるが、認知症施策推進計画には計画期間が定められていないため、須坂市ではいきいきプランの期間に合わせて評価や検討を行うこととしている。
- 本協議会は、偶数月に計4回の会議を予定している。次回は 10 月の開催予定。次回は、サービスの見込み量や保険料について御意見をいただき、年末の会議において、次期計画の素案をお示ししたいと考えている。
- 高齢者人口がピークを迎える 2040 年にかけて、地域のサービス需要が変化していく中で、次期計画の段階から中長期の介護サービス見込み量を見据えて策定することが重要となる。これまでの取組みを前提に、地域の実情に応じたサービス提供体制など、次期計画における位置づけを明確化し、取組みを進めていく。

○長野県総合政策課で実施している毎月人口移動調査を元に作成された本年 4 月 1 日現在の推計によると、須坂市の 65 歳以上の割合は須坂市 33.5%となっている。

(3) 須坂市高齢者等実態調査結果について

○高齢者等の日常生活実態及び介護者の介護実態を把握し、本市における課題整理を行い、次期計画策定の基礎資料とするために行うもので、須坂市では昨年 12 月に実施した。

○対象者数は、元気高齢者 500 名、居宅要介護要支援認定者 1,700 名とし、回収率は、元気高齢者が 77.6%、居宅要介護要支援認定者が 70.6%。

○調査の内容は、要介護認定を受けていない元気高齢者と居宅要介護・要支援認定者に分かれており、質問内容は、元気高齢者が 13 項目 76 問、居宅要介護・要支援認定者が 14 項目 68 問となっている。資料はそこから抜粋したのとなっており、主なもののみ説明。

(4) 2025年度地域ケア個別会議実施報告と地域課題等について

○地域ケア会議の全体像としては、地域ケア個別会議で抽出した地域課題を、高齢者施策推進会議において委員の皆さまとともに検討し、施策や事業につなげていく2層構造となっている。

○2025 年地域ケア個別会議は 15 回開催。検討事例数は 24 事例。

○会議の中で地域には高齢者を支える多様な資源や強みが見えてきた。

○課題としては 2024 年から引き続き見られた「移動・外出支援の不足」と「参加しやすい通いの場の確保」に加え、新たな課題として「認知機能低下への対応体制」と「地域特性に応じた介護予防」がある。

○事例の積み重ねを通じて、地域課題やニーズを必要な基盤整備につなげていく。

(5) その他

5 その他

事務局より今後の須坂市高齢者施策推進協議会のスケジュールについて説明。

第2回協議会は 10 月 28 日(水)13 時 30 分からを予定(会場は須坂市役所第 4 委員会室)後日、改めて通知送付する。

6 閉 会

<主な意見((1)須坂市高齢者いきいきプランの進捗状況について)>

委員：『すぎかマイ・ノート』はとても良い資料とは思いますが、特定の事業所に誘導するようなページがついていると公共のものと誤解するような人もいるので、誤解のないものができるように今後検討いただきたい。

委員：老人福祉センターがリニューアルオープン。シニアクラブ連合会や単位老人クラブの活動支援を行う必要があると記載がある。具体的にはどういったことを考えているのか。老人福祉センターくつろぎ荘は仁礼コミュニティセンターと併設になっているが、分かりづらい部分もあるのではないかと。建物1つに名称があってその中に2施設あったほうが、分かりやすくなるのでは。

事務局：老人クラブは数が減ってきているが、加入者同士のつながりがあったり、1人暮らしの方も誘っていただいたりありがたい団体。活動継続のためにどうしていったらよいか考える必要がある。活動に対して会員数によって補助金を出している。活動の内容や補助金の使い方も相談に乗っていただければ等考えている。

仁礼コミュニティセンターと老人福祉センターとそれぞれになじみがある方がいる。どのようにしていったらより認識して使っていただけるかしっかり考えていきたい。

委員：シニアクラブ連合会の県主催の女性部の研修会に他市町村は社会福祉協議会の方が必ず参加しているが、須坂市は参加してもらえてない。できれば支援してもらいたい。

事務局：シニアクラブ連合会の事務局を社会福祉協議会が担ってる自治体が多いと思うが須坂市は3月まではシニアクラブ連合会の事務局が老人福祉センター永楽荘にあり、社会福祉協議会で事務局を担っていただいていた。この4月からは老人福祉センターくつろぎ荘でシニアクラブ連合会の事務局も担うことになったので、市が事務局という形になる。他市町村の社会福祉協議会が出席していた理由は、事務局として出席されていたのではないかとと思われる。

委員：「高齢者訪問事業等」について、米寿のお祝いのあり方を検討し、廃止したとある。地元では期待している人もいる。地区独自で実施するという話もできているが、市の方で何らかの理由で中止にしたことを是非広報等を使って周知してほしい。

事務局：民生児童委員や区長には周知済み。市民の方にもしっかり周知をしていく。

<主な意見((2)須坂市高齢者いきいきプランについて)>

委員：「高齢化率」について全国的にはどれくらいか。

事務局：資料5ページに 2020 年までは国勢調査、2025 年以降は国立社会保障・人口問題研究所による推計の記載がある。

委員：須坂市が高齢化が進んでいる地域なのかということは市として認識しておくべき。健康寿命を延ばしていくために何をしているのか、その対象者がどれくらいいるのか考えて。須坂市が現状、長野県内、全国の中でどういう位置で、どういう施策をとってきたか興味がある。

<主な意見((3)須坂市高齢者等実態調査結果について)>

委員：独自調査項目(身寄りのない高齢者に関する項目)は大事。「身元保証サービス」「日常生活支援サービス」「死後のサービス」など、経済的に厳しい人は社協でサービスをやっていくと聞いたことがあるが、その他の人は民間のサービスを利用していくことになるのか。民間サービスについては、国がガイドラインを出したところでまだ、信頼できない業者もいるとのこと。これからニーズが増えていくと思う。国の施策のすき間を埋めていくことが大事。市としてはそういう苦情なり、変な業者がいるとかそういうことを注意して、今後3年間見ていってほしい。

<主な意見((4)2025年度地域ケア個別会議実施報告と地域課題等について)>

委員：地域課題の「移動・外出支援」をぜひお願いしたい。民生児童委員が2か月に1回ふれあいサロンを開いている。元気な高齢者は歩いてくるが、途中で倒れてしまった事例がある。サロンや講習会に参加するときなど、もう一歩踏み込んでお願いしたい。使いやすい仕組みを作してほしい。